

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 105

事務事業名	環境学習推進事業
-------	----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	市民環境部		
課名	環境保全課		
課長名	原 和彦	内線	178
担当者名	小川 美穂子	内線	142

基本目標		機能的で環境と調和したまち
政策	050401	環境にやさしいまちづくり
施策		環境保全の推進
関連施策		

会計	一般会計	
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	5	公害対策費
事業コード	020000	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	個人、団体、学校		
意図 対象をどのような状態にしたいか	次世代を担う子供達や市民に環境学習の場を提供することで、環境問題が日常生活と密着しているものであることを認識してもらい、環境保全に対する意識の向上を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	1 小学生を対象に「大村湾ウォッチング」及び「リバーウォッチング」を実施 2 主に小学生を対象に「環境出前講座」を実施		
事業期間	年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	大村市環境基本条例		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 講座等開催回数(ウォッチング等含む。)	計画値	21	22	23	24	
		実績値	10	12	8		
	達成度	%	47.6%	54.5%	34.8%		
	②	計画値					
実績値							
成果指標	① 環境講座・環境イベントへの参加者数	計画値	950	970	1,000	1,200	【計画値】 第5次大村市総合計画
		実績値	841	1,159	967		
	達成度	%	88.5%	119.5%	96.7%		
	② 参加者の中で環境保全に対する意識向上が図れた割合	計画値	100	100	100	100	
		実績値	%	100	95.1	93.8	
	達成度	%	100.0%	95.1%	93.8%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	302	259	359	290	327	327	327	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	302	259	359	290	327	327	327	
② 人件費(千円)	3,576	3,023	3,174	4,363	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.45	0.40	0.45	0.60	環境講座等 を実施	環境講座等 を実施	環境講座等 を実施	
時間外勤務(時間)								
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	3,878	3,282	3,533	4,653				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	昨年度までは申込み方法を先着順で行っていたので、団体が早期に申込みを行う学童が参加者の多くを占める状況になっていたため、選考方法を抽選制に変更した。 それにより、学童以外の参加者は増加したが、学童の申込みが減少したため、全体の参加者は減少した。 平成28年度の大村湾ウォッチングは、水生生物や水質などについて専門的な知識のあるスタッフがいないため、新たにNPO法人の協力を得て実施した。
事業が抱える問題・課題等	平成28年度の大村湾ウォッチングは、新たにNPO法人の協力を得て実施したが、今後も様々な団体と積極的に連携を図りながら、環境学習の場を増やしていく必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	環境問題は生活と密着した重要な問題であり、市民の意識も高まってきているなか、継続的に環境学習の場を提供することは重要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市民の環境保全に対する意識も向上し、その取組みを増えてきているが、市においても、市民等と連携を図りながら率先して関与する必要がある。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	実績値が計画値に達していないが、イベント・出前講座参加者の意見や参加状況から判断しても、環境保全への意識は高く、地道な継続的実施が今後の参加者等の増加につながると思われる。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	最低限のコストで実施しており、さらなる事業効果をあげるには、むしろコスト面の強化も必要である。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	環境学習の場において、子どもたちが初めて知ることも多く、環境保全に対する関心を持つ子供たちを増やすことで、次世代の自発的な環境保全活動への推進に期待できる。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	大村湾ウォッチングやリバーウォッチングは、小学生にとって参加しやすく学びやすい、身近な環境学習であるため、今後も継続して取り組む。また、選考方法の変更により、参加者数が減少したが、今後は学童以外の参加者の申込みをさらに増やすための工夫が必要である。 環境出前講座については、地道な周知活動を継続するとともに、生ごみリサイクル講座や県の機関及び環境NPOとの連携を図りながら、環境学習の場を広げていく。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。